



## オーストラリア債券投資のヒント

～堅調な国内景気を背景に資金流入は継続～

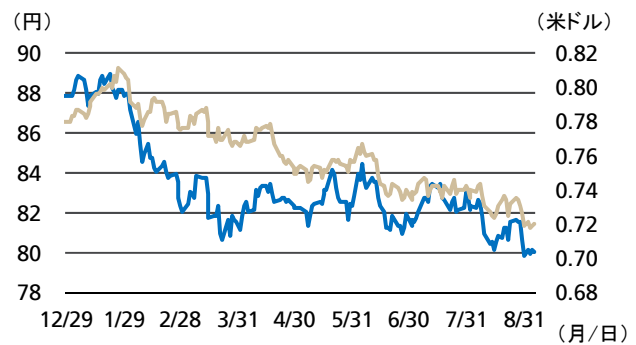
- 豪ドルは、米中貿易摩擦激化や新興国通貨下落による市場心理悪化、政治不安などの懸念材料から約2年ぶりの安値水準をつけているものの、状況には好転の兆しも
- 豪州経済は、4-6月の実質GDPが高い伸びを示すなど、堅調さを維持
- 堅調な経済、高い格付けなどを背景に、豪州への資金流入が継続

### POINT 1 豪ドルは年初来の安値を更新も、好転の兆し

- 年初来、豪ドルは対円、対米ドルで軟調な展開が続いています。9月6日現在、対米ドルでは約8%、対円では約9%の下落となり、およそ2年ぶりの安値水準となりました。豪ドル下落の主な背景については次のような点があげられます。

- ✓ 米中貿易戦争激化と、それに伴う中国経済減速への懸念
- ✓ トルコリラ急落を受けて新興国通貨全体が軟調となった影響
- ✓ モリソン新首相就任に伴う政策不透明感
- ✓ 8月下旬に豪州の大手銀行1行が住宅ローン金利引き上げを発表し、景気への影響が懸念されたこと

■ 年初来の豪ドル(対円、対米ドル)の推移(2018年9月6日現在)



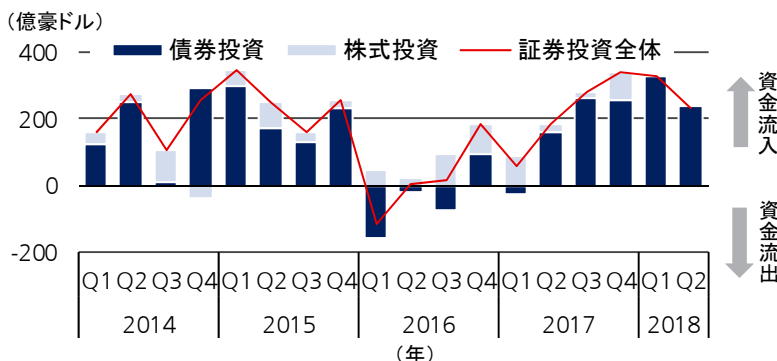
出所:トムソン・ロイター

- しかし足元では、国内の政治混乱は収束傾向にあることや、心理的な重石となっていた中国の景気減速懸念、人民元安についても、景気刺激策や人民元安抑制策などが打ち出されるなど、豪ドルを巡る投資環境は改善しつつあります。また、堅調な資源価格との対比で豪ドルは割安感もでてきています。

### POINT 2 豪州経済は堅調さを維持しており、資金流入が継続

- 9月5日に発表された豪州の4-6月GDP成長率は前期比で+0.9%(前年比で+3.4%)となり、事前の市場予想を上回る高い伸びを示しました。堅調な個人消費やインフラ投資などが豪州経済成長を下支えしており、今後インフレ率の上昇につながっていくことが期待されます。
- 国内経済の堅調さと格付けの高さなどが評価され、海外投資家からの豪州への資金流入は続いています。

■ 海外投資家による証券投資



出所:オーストラリア統計局、トムソン・ロイター

上記は過去のデータであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

■ 主な国の格付け

|     |                           |
|-----|---------------------------|
| AAA | オーストラリア、ドイツ、カナダ、スイス、デンマーク |
| AA+ | 米国、香港                     |
| AA  | 英国、フランス                   |
| A+  | 日本、中国                     |

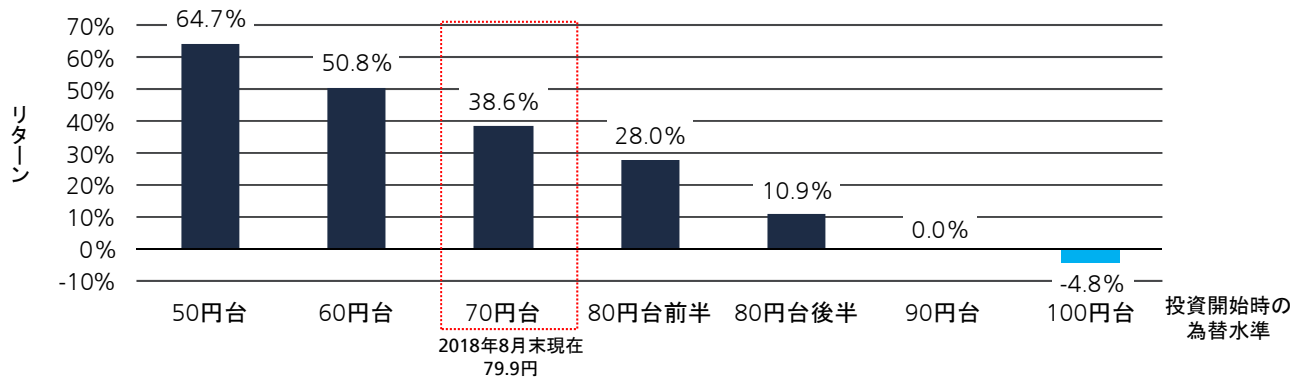
格付けは、S&P自国通貨建て長期債格付(2018年9月現在)

## POINT 3 長期保有で発揮されるオーストラリア債券投資の魅力

- 下のグラフは、投資開始時の為替水準と、保有期間別リターンの過去の平均を示しています。
- オーストラリア債券を3年間保有した場合、豪ドルが対円で90円台以下で投資開始した場合は、過去の平均リターンはプラスとなっています。また、豪州債券を5年間保有した場合は、100円台でも過去の平均リターンはプラスとなっています。
- オーストラリア債券投資は、対円での豪ドルの影響を受けるものの、より長期で保有することで金利部分の積み上がり等により、パフォーマンスが高まる可能性があるといえます。

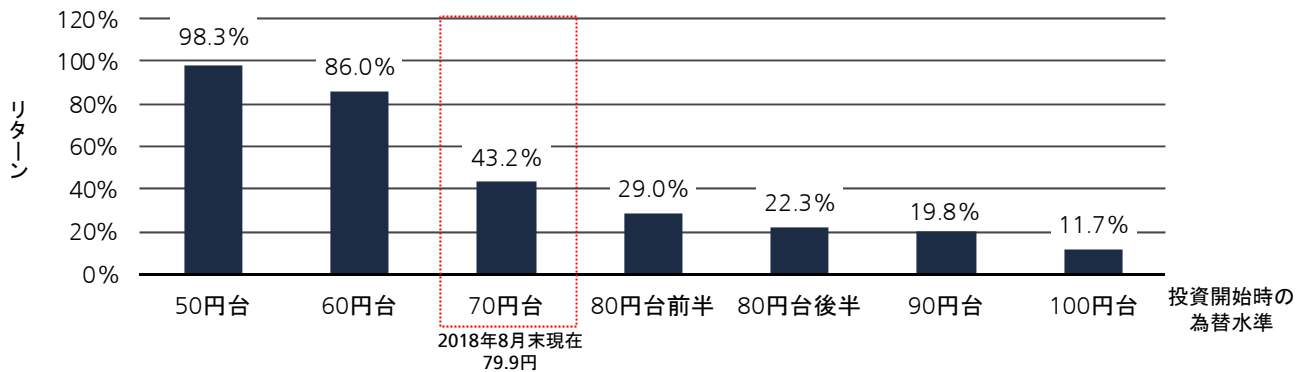
### ■ 投資開始から3年後の平均リターン(円換算ベース)

(投資開始:2003年5月末~2015年8月末、投資終了:2006年5月末~2018年8月末)



### ■ 投資開始から5年後の平均リターン(円換算ベース)

(投資開始:2003年5月末~2013年8月末、投資終了:2008年5月末~2018年8月末)



出所:トムソン・ロイター 豪州債券は、ブルームバーグ・オーストラリア債券(0-3年)指数のデータを使用  
 上記は過去のデータであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

UBSアセット・マネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第412号

加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

＜ご留意事項＞投資信託のリスクおよび費用は投資信託ごとに異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面でご確認ください。なお、以下に記載するリスクおよび費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましてはUBSアセット・マネジメント株式会社が運用するすべての公募投資信託のうち、徴収する各費用における最高の料率を記載しております。購入のお申込にあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)等をお渡ししますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断くださいますようお願いいたします。＜投資信託のリスクについて＞投資信託は株式、債券、投資信託証券など値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資家の皆様の投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、元本を割り込むことがあります。また、投資信託は、預金ではなく、預金保険制度の対象ではありません。投資信託のリスクは投資対象資産の種類、投資制限、取引市場、投資対象国等により異なります。※詳しくは各投資信託の目論見書および契約締結前交付書面をご覧ください。

＜投資信託の費用について＞投資信託のご購入時や保有期間中には以下の費用がかかります。【直接ご負担いただく費用】・購入時:購入時手数料:上限3.78%(税抜3.50%)・換金時:信託財産留保額:上限0.3%、【保有期間中に間接的にご負担いただく費用】・運用管理費用(信託報酬):上限約2.4839%(税込)(ファンドオブファンズの投資先ファンドの概算値を含む)・その他の費用(監査報酬、有価証券売買委託手数料、信託事務の諸費用等)をご負担いただきます。※これらの費用の額および計算方法等は、投資信託毎に異なります。詳しくは各投資信託の目論見書および契約締結前交付書面にてご確認ください。

本資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、信頼できる情報をもとにUBSアセット・マネジメント株式会社によって作成されておりますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。本資料で使用している指数等に係る知的所有権、その他一切の権利は、当該指数等の開発元または公表元に帰属します。本資料に記載されている内容・数値・図表・意見・予測等は、本資料作成時点のものであり、将来の市場動向、運用成果等を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。

© UBS 2018. キーシボル及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。